

## 平和を永遠に 茅ヶ崎で英霊に哀悼の誠を捧げる



神奈川地方協力本部藤沢募集案内所（所長 藤田准陸尉）は、8月15日（金）、平和慰霊塔（茅ヶ崎市茅ヶ崎公園内）において、終戦から69年目の「慰霊の日」にあたり、茅ヶ崎・寒川防衛協会会長の清水氏、同協会事務局長の田中氏の参加を得て、慰霊碑に献花を行った。

また、献花にはホノルル市（米国ハワイ州）と姉妹都市締結に向けた取り組みを進めている茅ヶ崎市の副市長が参加し、英霊に哀悼の誠を捧げるとともに平和の尊さを受け継いでいく決意を示した。

藤沢募集案内所は、「今後も、日本の平和と独立を守る自衛隊の使命、活動等について地域の方々の理解促進に努め、募集及び防衛基盤の拡充に寄与していく」としている。

## 自衛隊によって守られているという実感

### 神奈川地本カレッジ防衛モニター 関 宏康

第5回カレッジ防衛モニターの活動は、富士総合火力演習の見学。戦車や装甲車などの装備を駐屯地のイベントで見られる機会は結構あるが、それらが実際に動き、銃火器を実射する場面を見ることが出来る機会はこれぐらいしかないだろう。

会場にいた当初、辺りは霧に覆われ曇っていたが、前段演習開始前には霧と雲が晴れてくれたために良い条件の中で見る事が出来た。戦闘車両とヘリコプター群の両方が登場しての演習は迫力満点で、中でも戦車や榴弾砲の実包での射撃では、その腹にすしんと響き渡る音と衝撃に終始圧倒されるばかりであった。砲弾などが炸裂し、その衝撃波を目で確認できることなどそうそう無いであろう。

また、戦車のタイミングが揃った統率のある乱れなき動きや各隊員の技量など素人目線ではあるが、素晴らしいものであると感じた。今回は普段見ることのできない自衛隊の持つ実力の一端を見て、日本のもつ防衛能力の高さを知ることができ、私達が自衛隊によって守られているという実感を持つことができた。



筆者撮影

## 私とそうかえん

### 神奈川地本カレッジ防衛モニター 片岡 初実

カレッジ防衛モニターの活動第5回目は、富士総合火力演習の見学だった。この日は予行演習。それにも関わらず多くの人が押し寄せ、会場は人であふれていた。先着順でスタンド席に座れるチケットを持っていた私たちが、開始2時間以上前に到着したときにはすでにスタンド席は満員で、富士総合火力演習の人氣を物語っていた。

私は、そうかえんを何回か見たことがあったが、初めてでなくても退屈にさせない内容だった。当日は暑かったが雲行きが怪しかった上に、少し霧がかかっておりプログラム通りに事が進行するか心配だった。しかし実際に演習が始まると、そのような心配も吹き飛んでしまった。前述したが、天候があまりよいものではなかったのに、砲弾は的を外すことなく発射され、砲撃の正確さを示していた。着弾したときは私もまわりもみな感嘆の声をあげていた。発射音が大きいものはいくつかあって驚いたが、音が大きかったものほど威力があると感じた。陸海空自衛隊の合同演習では、以前体験搭乗をしたP-3CやCH-47登場し、その際にはひととき気分が高まった。体験搭乗した乗り物がこうした演習で使用されているのを実際にみて感動。

総合火力演習は、陸上自衛隊をメインに海上・航空自衛隊も参加しての一大イベントだった。このように陸海空自衛隊が一度に見られることは滅多にないと思った。このようなイベントがあるのだということを知って幅広く知ってもらえるよう発信していけたらと思った。



筆者と同行したカレッジ防衛モニター関氏撮影